

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600542
法人名	有限会社添田商産
事業所名	グループホームかがやき
所在地	福岡県田川郡川崎町大字川崎112番地
自己評価作成日	平成23年10月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年11月11日	評価結果確定日	平成23年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活、笑顔で暮らせる生活をめざし、健康管理、意思決定などに細心の注意をはらい利用者と御家族の潤滑油となれるように日々努力しています。毎年テーマを決めてそれぞれの、能力に応じた機能訓練や残存能力の引出しを目指しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は、当地での事業展開を長年継続しており、地域雇用にも貢献していた経緯がある。開設にあたり事業所を移転し、グループホームを建てられている。そのため地域の皆さんとは顔馴染みであり、信頼も厚い。地域の行事(餅つき、盆踊り、清掃等)には必ず参加の声をかけて頂いており、利用者と一緒に参加し、地域の方と触れ合う機会がある。また、ホームは地域住民の介護や認知症での悩みや相談、行方不明者の保護場所としても認識されており、困った時の窓口として地域に根付いている。困難事例等にも、行政との連携を図りながら柔軟な対応を行い、地域密着型サービスとしての果たすべき役割を担うべく、地域の福祉拠点としての活動展開に積極的に取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し、毎日朝の朝礼の場で利用者とともに復唱しています又、地域の活動などにも入居者とともに参加させて頂き充実した日々をおくっています	ホーム理念は6項目から成っており、それを皆で言いやすく分かりやすくしたものを作成し、毎朝利用者と一緒に「地域の皆さんと明るく楽しくたすけ合い、今日も一日笑顔でかがやきましょう」を復唱している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの際は園庭を開放し、踊りや神輿を地域の方々と楽しんでます又、地域行事にも誘って頂き、暖かく迎えていただいています	全ての地域の行事にはお誘いの声を頂き、毎回利用者と一緒に参加している。日常的にホームのトイレを開放しており、パンの移動販売日には駐車場を提供し、地域の方が集まって交流できるよう工夫されている。行方不明者の保護場所や高齢者の相談場所ともなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等の参加や、地元の中学生のボランティアの受け入れなど少しでもお役に立てるように努力しています		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催されており、毎回活発な意見があり、疑問点や支援の方向も、行政を交えることにより、的確なアドバイスを頂いています	区長や民生員、役場職員等が参加し定期的開催されている。ホームの状況報告の他、地域性や高齢化についての話し合いも行ない、情報交換及び共有を図っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の高齢者福祉課の方に何事にも相談に行き、昨年は困難事例を解決へと導いていただきました	何か困った事があればすぐに相談している。医療処置の必要な方の受け入れについて相談を持ちかけ、3回程行政を交えて検討会議を行ない、入居受け入れを可能とした経緯がある等、協力関係が構築されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、定期的に会議を持ち職員と意見交換し、行政にも指導を仰ぎながら身体拘束の無いケアの実践に努めています	職員は内部・外部研修及び会議に積極的に参加し身体拘束をしないケアへの意識を高めている。勉強会では目新しい拘束についてや、言葉による拘束について話し合いをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、人権学習(外部)に参加したりし、自らの意識の変革を行い日々、言葉の暴力を含め虐待防止に努めています		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットや資料を設置し、いつでも相談できる施設であるための努力をし、福祉事務所等の担当者とも連携をとるなどご家族のできない支援なども行っています	現在、制度活用者はいないが、いつでも相談・対応できるようにしている。県福祉事務所や役場、警察など必要な関係者と話し合いを持つようにしており、協力体制は構築されている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や、解約時はご家族に十分納得していただき時間や場所も、ご家族のにあわせ、いつでも十分な説明をしています		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、利用者アンケートを活用しながら、必ずご家族の意見を確認して運営に反映させています	家族より「ホームでどんなことをしているのか分からない」という意見を頂き、実際に見て頂こうと、年1回開催している家族交流会で、日頃の様子をDVD化して流し好評を得た。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等をいつでも受け止められるように常に連携をとりミニ会議を頻繁に行い意見や提案を聞く機会を設け、運営等に活かしています	月1回以上は会議を行ない、職員の意見を聞く機会を設けている。その他に総務部長による個人面談も行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業0をめざし、職員の努力や資格取得に応じて給与水準も決めます、無理のない仕事量で家庭環境も配慮し、希望休の取り入れなど働きやすい環境を目指しています		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件には、性別や年齢に左右されることはありませんし、職員の地域や学校行事なども参加できる体制を整えています	資格取得の為の休みは優先的にし、勉強時間も確保できるよう配慮している。研修費や交通費の補助もなっている。また出産休暇や育児休暇を取得し、現場復帰した職員もあり、子供の急な病気や学校の行事による休みにも柔軟に対応している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に入権学習の、期日や時間を調べ、報告し参加しやすい状態にし自らも参加します又、その後、会議を開き感想などを意見交換しています	年2回(7月・11月)、町内人権学習に職員全員が参加しており、定期的に学ぶ機会がある。推進会議の中で「認知症について」や「対応の仕方」等を説明し、地域の方に向けた啓発活動を行なっている。	

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年は外部研修の機会を多く持ち、本年度は、内部研修に力を入れましたできるだけ家庭生活に無理の無いように、トレーニングできるように努力しています		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の行事に参加させていただいたり、勉強会にも参加しています		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の認知度に応じて、不安感や要望をお聞きし、安心して生活していただける様に何度も、お話する機会を設けています		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、利用に至るまで御家族と何度も話し合い不安や要望を聴きいれ信頼関係を作るように努めています		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や利用者の状態を判断し、まず必ず、体験入居からはじめて頂き、利用者の状態を見極めたうえで入居を決めていただいています		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	すべて介護するのではなく、利用者のできることはして頂き、できないことをそっとお手伝いしたり、あとで自尊心を傷つけないように配慮しながら暮らしを支えています		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支える立場として大事なところは決定権を家族に委ねていますがいつも、絆を十分に保てるように努力しています		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の対応や、同窓会への参加の支援、友人宅への訪問、書簡のお手伝いなど最大限に努力しています	女学校の同窓会に参加したり、民謡踊りを習っていた利用者や発表会を観に行ったりと、関係が途切れないよう支援している。また読書好きな利用者には、週1回図書館に行き本を借りたり、家族の協力で外泊を兼ねてお墓参りに行ったりと、個々の馴染みの関係が継続出来るよう支援している。	

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を尊重し、利用者同士が関わりあい、信頼できるように時には、職員が助言しながら共同生活が楽しく暮らせるように配慮しています		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で関係が切れることの無いようにご家族と連携をとり定期的に面会に出かけたご家族のできないことを支援しています		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式にて利用者の希望や意見を取り入れています	2ヵ月に1回センター方式を活用し、職員担当者が思いや意向の把握に努めている。聴取する時は対等な対場で、ありのままを記載することを心掛けている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や友人知人、又は行政などからも情報を頂きサービス利用の経過の情報の把握に努めています		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の把握、既往症や有する能力など現状の把握を早急にミニ会議を何度も開き、できることできないことを職員間での情報の共有に努めています		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が利用者や御家族又関係者(主治医など)に必要なに応じて意見を聞き介護計画に取り入れています	毎月月末に担当者会議を開催し、プランの見直しを行っている。家族や医師には事前に聴取し、意向や指示をもらいプランに反映させている。	更なる次のステップへ向けて、充実しているアセスメントを活用し、プランへ反映させていくとともに、記録様式の工夫や内容の充実への取り組みに期待します。ケアプランと介護記録の連動性を意識することにより、モニタリングが有効に作用すると思います。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートの活用、又職員の個人ノートを活用し、情報の共有に努め、実践し介護計画の見直しに活かしています		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に応じて、通院の支援や付き添い入院時の洗濯や、状況報告、退院時のお迎えなどその都度、ニーズに答えられるように柔軟な支援を心がけています		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全な生活を送れるように警察に定期巡回をして頂いたり、消防による年2回の防災訓練等です。豊かな暮らしの面では、地域の図書館の活用、又、中学生の職場体験の提供の場など地域での暮らしを最大限に楽しめるように支援しています		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は利用者のご家族の希望を大切にし経済的にも負担のないよう配慮しながらかかりつけ医と連携をとり(時には電話などで指示)適切な医療を受けられるように支援しています	かかりつけ医の受診を支援している。受診後は「受診報告書」を作成し、申し送り時に報告・共有している。家族には電話や手紙で報告を行なっている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に最低でも2日に一度は尋ね、病院関係者とも情報交換に努め、何かあれば気軽に電話を頂いたりしています		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方は利用者のご家族の意見を尊重し、重度化した場合は、行政にご相談し、ご家族の納得の上で、チームケアに取り組んでいます	入居時に家族の意向を確認している。ホームには看護師がいない事や、ホームで出来る事、出来ない事を説明し理解をもらっている。重度化した場合に再度説明を行ない家族の意向に沿ったケアを行なっている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応にミスは許されないので定期的に訓練を行い、内容も具体的に記載しています		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域の方も交え避難訓練をし、地域との協力体制も築いています	3ヵ月に1回、ホーム独自で避難訓練をし、年2回は消防署立ち会いのもと、防災・避難訓練を実施している。運営推進会議を利用し、区長や民生委員も参加した避難訓練を実施している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を尊重し礼節をわきまえ、暖かい言葉かけや職員の声のトーンにも配慮しながら対応に努めています	日中、リビングで過ごされる方、居室を好まれる方と利用者の好む場所を確保し、一人ひとりにあった距離感を大切にしている。言葉かけには常に意識し対応している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉に耳を傾け、又、顔やしぐさで判断し、利用者の自己決定を重んじています		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一日の大きな流れを意識しながら生活のリズムを崩さないようにさりげなく支援しています		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時には、衣類など買い物に出かけ、ご自分の好みのおしゃれを楽しんだり、美容室に出向いたり又、地域の理美容の方が訪問して頂いたりしています		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みやアレルギー等に配慮し、時には家庭菜園の収穫物を一緒に調理したり、準備、片付け等、一緒に楽しみながらしています	家庭菜園ではゴーヤ、トマト、ナス、キュウリ等、季節の野菜が作られ、一緒に収穫・調理し旬の味覚を味わうことを楽しんでいる。利用者は包丁を使って野菜の皮むきやみじん切りを手伝ってもらうこともあり、できる事を継続している。月に1回クッキングの日を設け、皆でおやつ作りをしている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し、水分等はチェック表を用い利用者ごとに調理の仕方も工夫し、習慣等も配慮しながら、支援しています		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の確認をし、義歯の洗浄除菌はご自分でできるところまでして頂き、後は職員が就寝前に必ずお預かりし行っています		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめにさりげなく排泄誘導をこころがけ、個人の排泄時間の把握に努め自立できるように支援しています	入居後は、30分おきのデーターを1週間取り、排泄パターンを把握し、利用者にあった下着を選択している。医療処置が必要な方もおり、医師との連携を図り管理を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の食物の摂取及び水分量の管理、軽運動の推進や腹部の温めなど、なるべく努力しています		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3度は入浴日をきめていますが、希望に応じて時間や曜日も変更しています	職員が入浴準備をするのではなく、利用者が好きな下着や洋服を選択し準備している。拒否が強い時は時間を置いたり、順番を変えたりしてタイミングを図り誘導支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転に気をつけながら、体調や気分に合わせて、気持ちよく眠れるように支援しています		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬表を作成し処方された薬の説明を必ず熟読し副作用の理解や用法や用量のミスが無い様症状の変化などにも細心の注意を払い、変化時は服薬を中止し、主治医の指示を仰ぎます		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	団体行動をとる時間帯と個別行動をとる時間帯を明確にし、生活が楽しい物になるように支援しています		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じてドライブに出かけたがり、買い物をしたり、時には、御家族にお墓参りに連れて行っていただいたり、近くの温泉にご家族と泊まられたり地域のお友達のお宅にお邪魔されたりしています	散歩に行ったり、行事レクとして花見やぶどう狩りに行ったりしている。受診後は直帰せず、必ずスーパーや商店街、外食に行く等、利用者の行きたい所に行けるよう個別対応している。受診時以外でも外出の希望があれば、すぐ対応できるようにしている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の要望と能力に応じて、金銭管理をしています支払いには職員が付き添い支援しています		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じて、相手方の迷惑な時間帯でない限り自由に手紙のやり取りや電話での会話を楽しまれています		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を作成したり安全で安心な生活空間が保てるように努力しています大きな物音がした場合は、必ず確認の呼称をしています	昨年までウッドデッキだった部分を行政に相談し、ホールに改築されている。改築されたことにより、広々としたリビングの空間が確保されている。外には長椅子が置いてあり、日本庭園の四季折々の木々を眺めながら、ゆっくりとした時間が過ごせるようになっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	内外ともに所々椅子を置いたり居場所の工夫をしています。ときには居室内で食事を楽しまれることもあります		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やご家族の希望を取り入れ危険性が無い限り居心地が良く過ごせるように工夫しています	居室は、自宅の居室を復元したかのような空間となっている。趣味の書籍がたくさん置かれていたり、家族写真やお仏壇等が持ち込まれており、独自の空間が作られている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの明示や照明の工夫。安全に移動できるように手すりやセンサーの設置、呼び出し鈴等自立した生活ができる様に努力をしています		